

みつぎ便り

119号
8月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成28年8月1日 <http://itbs-ecopo.jp/projects/environsurvey/2013/000253.htm>

夏休み特集

クスノキじいじの独り言。 1

わしは見次公園の入口におるクスノキじゃが、どこにいるのか分かるかな。長年、わしもいろいろな生き物達と一緒に生きてきたんじゃが、今日はその中から、よくここに遊びにくる鳥達を教えよう。

まず、なんとと言っても一番目立っているのは『カルガモ』じゃな。春になると生まれたての小さなヒナ達を引き連れて、親子で散歩をしている様子は、大勢の人々のアイドルじゃよ。わしもついで、目を細めてしまおうのじゃ。



カルガモ

その脇に時々おるのが『カワウ』じゃ。天氣の良い日に翼を広げ日光浴をしておるが、奴は大食漢でなあ、釣り人の釣る魚よりずっと多くの魚を食つとるのさ。

冬になると、白黒で金色の眼をした『キンクロハジロ』が北の国からやって来るし、白い首輪をした『マガモ』やスタイルの良い『オナガガモ』も来ていたんじゃが、ここ数年顔を見ないなあ。どうしたんじゃろう。



カイツブリ

でも、今年の春には初めて『カイツブリ』が来たんじゃよ。丸っこくて潜りの名手なのじゃ

な。会ってくれたかな。

わしの足下の植え込みは、ほら、『スズメ』の天国じゃよ。全国的に数が減っているらしいが、見次公園じゃあ、その数はナンバーワンじゃな。暖かくなつてくるとヒナ達が、大人より白っぽい羽根の小さな体に、元気をいっぱい詰め込んでそこいら中を跳ね回っておるよ。

その横で、『ドバト』が『キジバト』と一緒にパングをつついておるぞ。クチバシと足が赤い『ムクドリ』も群れで来とることあるぞ。ムクドリは、何千、何万という大群をつくることもしばしばで、うるさい鳴き声や汚い糞害で、地域住民を憤慨させとるようじゃ。

鳴き声といえば、ピーヨ、ピーヨの『ヒヨドリ』も多いのう。氣の強い鳥で、おいしい物があると他の鳥を追っ払い、独り占めならぬ一羽占めをする困った奴じゃ。

可愛らしく、ツツピイ、ツツピイと鳴くのが『シジュウカラ』で、年中、灌木の周りで遊んでいるぞ。黒く太いネクタイをしているのがオスで、ネクタイの細いのはメスじゃよ。